

第5学年 体育科（保健領域）学習指導案

対 象：第5学年2組33名

1 単元名「けがの防止」（けがを防いで安全に過ごそう！ 大修館）

2 単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止、けがの手当について、理解することができるようにするとともに、けがの簡単な手当についての技能を身に付けることができるようにする。	けがの防止について、課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。	けがの防止について、健康や安全の大切さに気づき、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 事故やけがの多くは、人の行動と周りの環境が原因で起こること。また、人の行動は、そのときの心や体の状態と関係していることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができる。 ② 交通事故を防止するには、周囲の状況をよく見極め、危険に早く気づいて、的確な判断の下に安全に行動すること。また、安全施設の整備や適切な規制が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができる。 ③ 学校や地域でのけが、犯罪被害を防止するには周囲の状況をよく見極め、危険を予測し、安全に行動することが必要で	① 事故にあいそうになったり、けがをしそうになったりした経験を思い出し、危険の予測や回避の方法を考えたり、選んだりするとともに、通学路などでの交通事故を防止するための具体的な方法を考え、考えたことを友達と伝え合ったりしている。 ② 学校や地域でのけがの防止や犯罪被害を防止するための課題を見つけ、考えた解決方法を友達と伝え合ったりするとともに、自分がけがをした経験を振り返り、学習したことを参考にして、けがの種類に応じた手当の仕方を選んだりしてしる。	① 健康や安全の大切さに気づき、けがの防止についての学習に進んで取り組もうとしている。

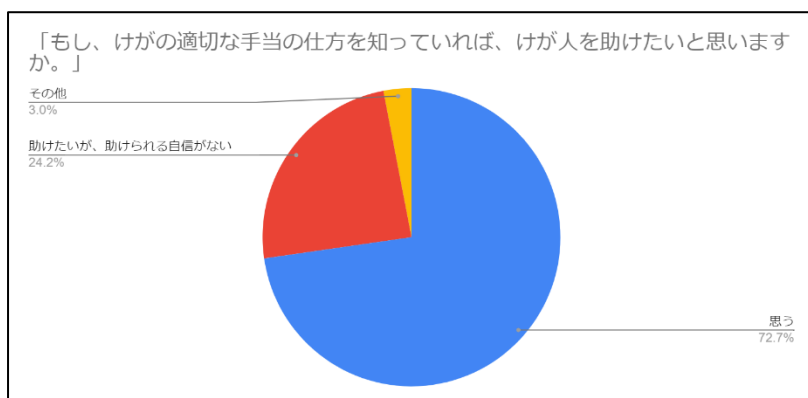
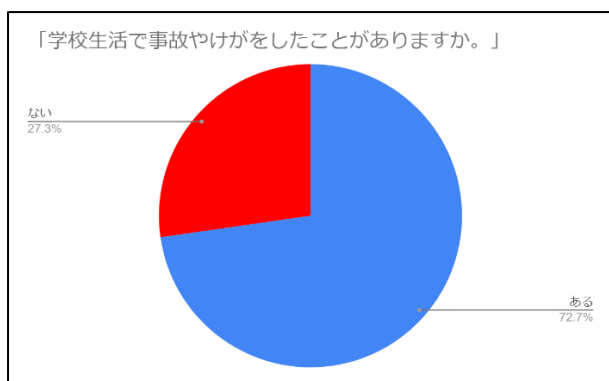
あること。また、環境を安全に整えることが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができる。 ④ けがをしたときは、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して手当をし、近くの人に知らせること。また、簡単な手当について、理解したことを言ったり書いたりしていると同時に、簡単な手当ができる。		
---	--	--

4 児童の実態

(1) 実施方法：Google Form

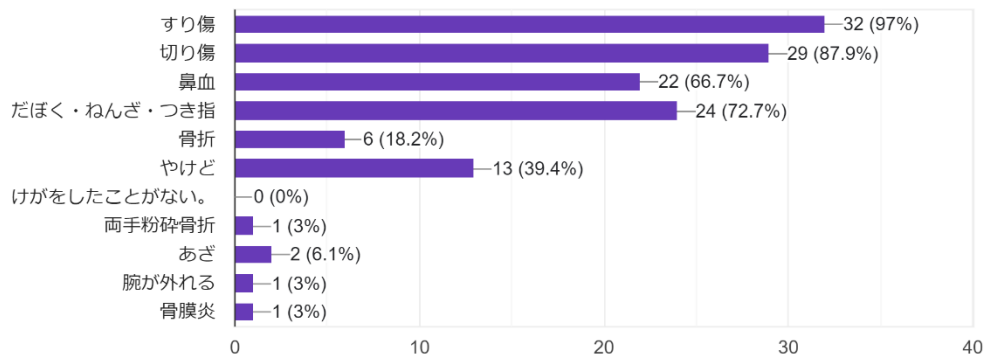
(2) 実施時期：9月下旬

(3) 対象：第5学年2組33名



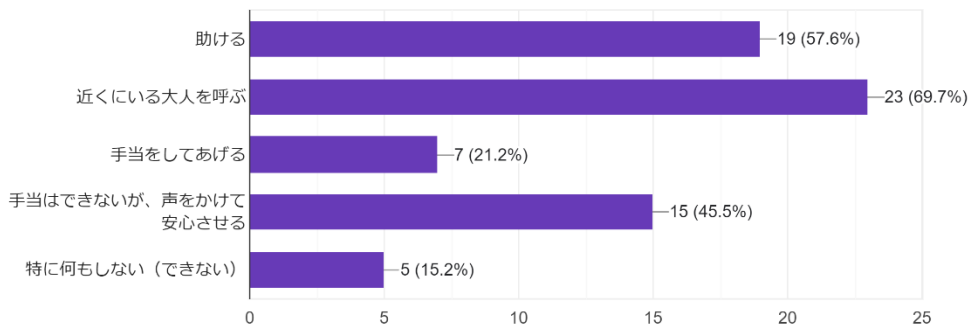
今までにけがをした経験はありますか。どんなけがをしましたか。

33 件の回答

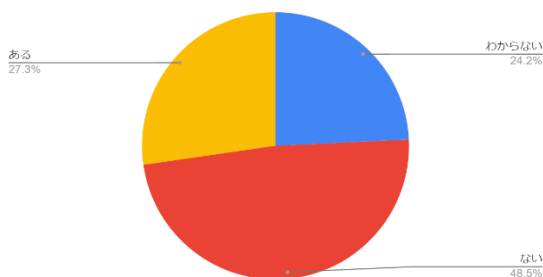


けがをしている人を見かけたら、あなたはどうしますか。

33 件の回答



「交通のことにに関して、登下校で危険だと感じたことはありますか。」



どんなことが危険だと感じたか。

銀門の前の道が狭く、児童と車がぶつかったりしてしまうかもしれない。
トラックが勢いよくバックしてきて、ひかれそうになったことがある。
狭い道があったり、人通りが少なく不審者が隠れるところがたくさんある道があるから。
カーブミラーがなくて急に車が飛び出してきてぶつかりそうになった。
赤信号でわたっている人がいる。
道路の止まれ文字が消えていた。

学校や自宅の近くで、危険だと感じる場所はどこですか。

トンネル、信号、坂道、道路、赤塚6丁目公園、暗くて細い道、暗くて人通りの少ない曲がり角、住宅街や信号がない横断歩道、車で隠れている道、十字路、車の死角になるところ、工事している所、ミラーが無い見通しの悪い所、川越街道の信号、人が少ない所、自分が一人になる場所

交通事故にあわないために、普段どんなことに気を付けていますか。

交通ルールを守る。前を見る。歩きスマホをしない。信号を確認する。ヘルメットをかぶる。車を避ける。事故が起きない環境を作る。道路では白い線の内側で歩く。左側通行を守る。T字路で一回止まる。横断歩道での左右確認。ゆっくり進む。鏡で確認する。前後を見る。曲がり角はしっかり止まる。

調査結果から、本学級では、学校生活において怪我をした経験のある児童が約72%おり、怪我の手当の仕方を学習することに意欲的であり、もし手当の仕方を知っていれば怪我人を助けたいと思う児童の割合も多かった。また、学校で怪我をした原因について、「友達とぶつかった。」「よそ見をしていたらボールが当たった。」などの人の行動（不注意）が原因のものあれば、「廊下に落ちていた物につまずいて転んだ。」「床が濡れていて滑って転んだ。」などの環境が要因のものもあった。このような経験から、事故や怪我は「人の行動」と「周りの環境」が原因で起こることに気づかせたい。

また、交通事故に関して、登下校で危険な目に遭った経験のある児童は約27%であったが、学校や自宅の周辺における危険な場所について聞いたところ、該当場所が複数出た。実際に、この学区内周辺の地域は、道が細く曲がり角が多かったり、横断歩道や信号機がない場所もあったりするため、登下校時に危険な目に遭う可能性も否めなくはない。児童に、交通事故に遭わないために気を付けていることについて調査したところ、「交通ルールを守る」、「前方確認」、「信号確認」、「(自転車の場合は) ヘルメットをかぶる」、「道路の白線の内側を歩く」など、交通事故に関して、高い意識をもって行動していることが分かった。

そこで、本単元を学習することで、危険を予測し、より安全な行動ができるようにしていきたい。また、事故や怪我を防止するためには、人の行動だけでなく、環境も整えることの大切さを知り、自分たちにもできることはないかを考えさせたい。さらに、怪我の手当の仕方を学習することで、もし事故で怪我人が出てしまった時に、学習したことを生かして応用できるようにしていきたい。

5 教材観

本単元では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止の仕方について学習する。単元の前半では、交通事故は人の行動と環境が関わること、交通事故を防止するためには、的確な判断の下に安全な行動をとることに加えて、環境を整えることを理解する。単元の後半では、けが人を見つけたら状況の速やかな把握と処置を行い、近くの大人に知らせること、けがの手当をするときには、傷口を清潔にし、圧迫して出血を止め、患部を冷やすなどの措置をとることを理解する。また、学習したことを実践し、けがを防止するための危険の予測や回避の方法を考え、自分の考えを表現することが重要であると考え。

本時では、単元の導入として通学路などの学区域の写真を提示し、学区域内にはどのような危険があ

るのかを予測し、友達と話し合う活動を行う。特に、下赤塚小学校周辺の地域は、細い道や曲がり角が多く、交通事故が起こりやすい場所も多い。児童の今までの経験も含め、身近な地域から学習に入ること、普段の生活の中でも交通事故やそれに伴うけがが起こる危険性を理解し、本単元の学習意欲へと繋げる。

展開では、絵の中から危険を予測し、交通事故にあわないための安全な行動を考える。その際に、絵の中の人物がどのような行動をどんな環境でしているかに着目させ、交通事故は「人の行動」と「環境」が原因で起こることを理解できるようにする。また、絵の中の状況をより安全にするために、標識や信号機、カーブミラーなどをどこに設置すればよいかを考え、グループで話し合うことでマップを完成させる。その活動から、交通事故を防止するために「環境」が整えられていることに気づけるようにする。さらに、警察の方から、実際に起こっている交通事故に関する話や、交通事故が起こりやすい環境に関する話を聞き、交通事故について、より深く理解できるようにする。

まとめでは、本時の学習を振り返ると共に、身近な地域に立ち返って考えることで、本時の学習内容を自分事として考えられるようにする。さらに、学習を通して新たに発見したことや児童が疑問に思ったことなどから、今後の学習につなげられるようにする。

本単元では、警察の方から話を聞いて外部との連携を図ったり、養護教諭と共に授業を進めたり、担任以外の大人とも関わりをもつことで、児童がより実感を伴って、学習意欲を高められるように工夫していく。

6 目指す児童像

「危険を予測し、事故やけがを防ぐための安全な行動や環境づくりを進んでしようとする子」

7 目指す児童像に迫るための手立て（本時に関わる手立て……★）

（１）これまでの自分との出会いの工夫

具体的な手立て	期待される児童の姿
普段利用している通学路などの学区の写真を 見せ、身近な地域に潜む危険を把握する学習 活動を設定する。……★	危険を予測し、的確な判断の下に安全な行動をとろう とする姿。

（２）生活を見つめ直し、自己を高めるための工夫

具体的な手立て	期待される児童の姿
警察の方から交通事故について話をしてもら う。……★	板橋区の交通事故の状況について理解するとともに、 交通事故を防ぐための具体的な方法を考え、実践しよ うとする姿。
担任と養護教諭が共に授業を行う。	けがに関する知識や技能を身につけると同時に、これ からの学習意欲や実践力をもつ姿。
けがの手当の仕方をペアで実践する活動を行 う。	適切な手当の手順と方法を身に付け、必要となったと きには自ら進んで行う心構えをもつ姿。

8 単元の指導計画と評価計画（全4間）

時		1（本時）	2	3	4
学習活動		めあて 交通事故を防止するためには、どうすればよいのか考え、話し合おう。 1 学区域の写真を見て危険を予測し、グループで話し合う。 2 絵の中から危険を予測し、安全な行動の仕方を考える。 3 板橋区で起こっている事故や事故が起りやすい環境について知り、学校や自宅周辺での安全な行動の仕方を考える。	めあて 学校の中や身近の場所にひそむ危険を予測し、危険を回避するための行動を考えよう。 1 今までに事故やけがなどの危険な目に遭った経験を話し合う。 2 絵を見て危険を予測し、事故やけがの原因を行動と環境に分けて考える。 3 事故やけがの経験をあげ、どうすればよかったのかを振り返る。	めあて 学校や地域でのけがや事故、犯罪被害を防ぐためには、どうすればよいのか考え、話し合おう。 1 3つの絵を見て、危険を予測する。 2 危険の予測とけがを防止するための安全な行動を考える。 3 地域で行われている環境づくりについて調べる。 4 学校や地域で安全に過ごす方法を考える。	めあて 自分がけがをしたり、けがをした人を見つけたりした時の対処法を知り、やってみよう。 1 けがをした場面について、どのような行動をしたらよいかを考える。 2 けがの種類や程度の応じた正しい判断や手当の仕方を知る。 3 児童同士で、けがの手当の仕方を実践する。 4 けがの手当で実践したことを振り返る。
	知・技	② 【ワークシート】	① 【ワークシート】	③ 【ワークシート】	④ 【ワークシート、観察】
	思・判・表	① 【ワークシート、観察】		② 【ワークシート、観察】	
評価の観点	主体的				【ワークシート、観察】

9 本時（4間扱いの1時間目）

（1）本時の目標

- ① 交通事故を防止するには、周囲の状況をよく見極め、危険に気づいて、的確な判断の下に安全に行動すること。また、安全施設の整備や適切な規制が行われていることを理解できるようにする。（知識及び技能）
- ② 通学路などで交通事故を防止するための具体的な方法を考え、友達と伝え合うことができるようにする。（思考力・判断力・表現力等）
- ③ 交通事故を防止するための安全な行動の仕方や環境の整備について、教科書の資料などで調べる学習に進んで取り組むことができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）

（2）本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◎評価【評価方法】
導入 5分	○通学路などの学区域の写真を見て、どんな危険があるのかを予測し、話し合う。 ・横断歩道がないから危ない。 ・道が細いから、車や自転車にぶつかりそう。 ・角から車が飛び出してきそう。 ○写真の中には、横断歩道やカーブミラーが足りないことを確認する。 ・この曲がり角には、カーブミラーがあるはず。 ・この道路には、横断歩道がないと危ない。 ○本時のめあてを確認する。	◇教員が事前に学区域の写真を撮影し、子供たちの身近な地域から、危険を予測できるようにする。 ◇提示する写真は、横断歩道やカーブミラーなどは消しておき、クイズ形式で確認をする。
	めあて：交通事故を防止するためには、どうすればよいのか考え、話し合おう。	
展開 30分	○教科書 p.28 の絵を見て、どんな危険があるのかを予測し、交通事故にあわないための安全な行動や、環境の整備などの改善策を考え、ワークシートに記入する。 ○予測した危険とその改善策をグループで話し合う。また、話し合った内容をマップに書き込んでいく。 ・道路に飛び出してボールを取りに行く子が車に引かれそう。 ・横に並んで歩いている女の子たちの後ろから、車が来ている。 ・道路を渡るときは、横断歩道を渡って歩く。	◇指導の際には、絵の中の危険な行為は真似しないことを伝える。 ◇各班にマップを1枚配り、危険な行為や必要な標識、信号機などを児童が書き込めるようにする。 ◇事故は「人の行動」と周りの「環境」が原因で起こっている

	・曲がり角にはカーブミラーを設置した方がよい。 ○完成させたマップについて、危険だと感じた行為やその改善策、また、設置した信号機や標識などについて班ごとに発表する。 ・飛び出しをする行為は危険なので、左右を確認する。 ・曲がり角は見えにくいので、カーブミラーを設置した。 ○実際に板橋区（下赤塚周辺）で起こっている交通事故について確認し、警察の方から話を聞く。また、交通事故が起こりやすい環境について確認し、そこではどのような行動を取ればよいのかを考える。 ・交通事故を防止するために、危険を予測して、安全な行動をすることが大切。 ・標識や信号機などをつけて、環境を整えることも大切。 ・坂道では自転車のスピードが出やすいので、安全に運転する。	ことを想起させ、絵の中の人物がどんな行動をどんな環境でしているかに着目させる。 ◇事故は「人の行動」だけでなく、周りの「環境」が原因でも起こっていることを確認し、その「環境」を整えることが必要であることに気づかせる。 ◇実際に警察の方から話を聞くことで、交通事故について理解を深め、より関心をもてるようにする。 ◇警察の方から子供たちが話を聞くことで、より理解を深められるようにする。
まとめ 10分	○本時のまとめをする。 ・交通事故を防止するには、周囲をよく見て危険を予測し、適切な判断をして安全な行動をとることが大切である。 ・また、安全を守るために環境が整えられている。 ○振り返りをワークシートに書く。 ・交通事故を防止するために、安全な行動をとるだけでなく、周囲の環境も整えられていることが分かった。 ・通学路で、信号がない横断歩道があるから、道を渡るときに車に注意して渡りたい。 ・交通事故が起こりやすい危ない場所に、標識や信号機、カーブミラーなどが設置されていることが分かった。	◇児童の振り返りから出てきた発見や疑問から、今後の学習につなげていく。 ◎交通事故を防止するには、周囲をよく見て危険を予測し、適切な判断をして安全な行動を取ることや、安全を守るための様々な環境を整えることが大切であることを理解し、具体的な方法を考えることができる。 （知識・技能②/思考・判断・表現①） 【ワークシート、観察】

(3) 板書計画

交通事故の防止

めあて：交通事故を防止するためには、どうすれば
よいのか考え、話し合おう。

写真

写真

写真

写真

写真

写真

マップ

キーワード

- ・危険の予測
- ・安全な行動
- ・環境

(4) 協議の視点

- ① 危険を予測し、改善する方法を考える学習活動は、ねらいを達成するために効果的であったか。
- ② 警察の方から区内の交通事故の状況などの話を直接伝える授業は、生活を見直し、自己を高めるための工夫として効果的であったか。